

サブちゃん

近くの果物屋さんの店先に、いつも人まねするオームを入れた鳥籠が置いてある。時々大きな声で「オハヨウ、コンニチハ」と喋っている。

知らない人が側を通った時など、でつかい声で「オハヨウ」といわれれば、吃驚する。その声が五十米程離れた我が家の店先まで聞こえる。

育英高校生の通学路で大勢の生徒が通る。生徒の中にふざけるのがいて、「エッチ」な言葉を教えようとする。毎日ように教えられたら覚えてしまう。朝は時間が無いからいいが、帰りが心配だ。果物屋さんでは、時間が来ると、奥に引つ込めたそうだ。

我が家でも誰が言い出したのか覚えて居ないが、九官鳥を飼う事にした。ペットの名前はいつも子供たちが付けていたので、任せたら、二郎の弟。三郎をもじって、サブちゃんとした。

色は黒いが艶があり嘴が黄色で可愛い。我が家の一員となった時は、まだ幼鳥だったから喋らない。縁側や店で飼っていたが、少しずつ言葉を覚え、喋るようになった。

奇妙な事に一番先に覚えた言葉？は……………。

ペットは飼い主に似ると云うのか、私に似た所が出てきた。言葉ではない。私はその頃慢性気管支炎で、何時も咳がでて困っていた。一日中咳払いをいサブちゃんの側でやると、飛び上がって吃驚する。その内咳払いを覚えてしまつて、サブちゃんは私とソツクリな咳払いを真似るようになった。

店にお客さんが来ると、妻は「いらっしやい」といつて出てくる、それも覚えた。客が来ると妻より先に「いらっしやい」と言うようになった。

妻が店に出て来るのが遅いと、何回も喋る。お客さんも呆れて、出てきた妻に『鳥つ子に店番させるのすか』と嫌味言われた事があつたと話していた。

喋る言葉の数がだんだん多くなつた。「オハヨウ」「コンニチハ」私達の会話の中から約九種類、子供達を「ヨウボー」「ジロ

ボー」と呼んでいたから、それも覚えた。

側に居た時「ヨ
ウボー」「ジロボ
ー」とやられると
子供達は半分怒っ
て。鳥かごを叩く。
楽しく平和な四人
家族である。

サブちゃんは我
が家で十九年、長
生きした。大往生
である。人間だっ
たら何歳だろう、
可愛いサブちゃん
だった。

八幡町に剥製屋
さんがある、家族
皆で相談、持ち込
み剥製にして貰っ
た。綺麗な木にと
まりガラス箱に入
り帰って来た。

生前の姿そのま
まである。家族の
一員となり長く楽
しませて呉れたサブちゃんは、蔵王と一緒に引越し、居間のテレ
ビと同じ台に飾られ、私達を何時も見守っていた。

仙台にUターンしたが、さぶちゃんは蔵王で一人(?)留守番
している。その内連れて来たいと思っている。



平成十四年十二月二十一日